

宿縁

二月号

浄土真宗
本願寺派

中原寺

TEL〇四七―三七二一〇二九二
FAX〇四七―三七二一〇二六一

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

人間の作為と

仏がなさるはたらき



仏法(ダルマ)は釈尊が発見した真理です。発見と発明とは違います。発明とは新たに物事を考え出すことであり、発見はまだ知られていなかったことをはじめて見つけ出すことです。

インドの一小国の王族の子として生まれたゴータマ・シッタタタが修行者となり、六年の苦難を経てのちさとりを開いたとき、「われブツダとなれり」と宣言しました。仏陀とは、真理を会得すること、気づくこと、気づくことの意味です。すなわち仏陀は「目

覚めた者」本当の道理を知ったということ

です。
今、八十年前に書かれ、初めてマンガ化された「君たちはどう生きるか」(原作吉野源三郎、漫画羽賀翔一)の本が、ベストセラーになっていきます。誰にでも読みやすく分かり易い内容です。

つつい仏教の話は難しく理屈っぽいと思われる方々には、この本をヒントにしていただくことをお勧めします。好奇心旺盛な十四歳の主人公コペル君と、亡くなった父親がわりに彼を見守る叔父さん。二人の心温まるやりとりを通じて、人間としてあるべき姿、生きるヒントが数多く描かれています。

最初に「ものの見方について」で、コペルニクスの地動説が出てきます。むかしの人は、みんな、太陽や星が地球の周りをまわっている(天動説)と、目で見たままに信じていました。ところが、コペルニクスは、それはどうしても説明のつかない天文学上の事実に出あって、地球のほうが太陽の周りをまわっている(地動説)と考えてみました。そう考えてみると、今まで説明のつかなかったいろいろなことが、きれいな法則で説明されるようになりました。しかし、この説が信奉されるまでには、何百年という年月がかかりました。人間が、自分を中心としてものを見たり考えたりした

がる性質というものは、これほどまで根深く、がんこなものなのです。コペルニクスのように、自分たちの地球が広い宇宙の中の天体の一つとして、その中を動いていると考えるか、それとも、自分たちの地球が宇宙の中心にどっかりとすわりこんでいると考えるか。この二つの考え方というものは、じつに、天文学ばかりのことではなく、世の中とか、人生とかを考えるときにも、やっぱり、ついでまわっています。

親鸞聖人は、人間が救われるのは「自然法爾(じねんほうに)」といって、助かるのは私の行為によってではなく、仏のなさることとおっしゃいました。

『自然の字は「自」はおのずからという意味で、念仏者のはからい、意図が関与しないことを意味します。「然」というのは、そのようにさせておくという言葉です。つまり「自然」とは人が手を加えないでいる、そのままの在り方のことを指します。つまり阿弥陀さまのはたらき一つによってそのまま救われていく摂理のことです。そして法爾とはつまりところ阿弥陀仏の誓い、すべての生きとし生けるものに施された功德だとおっしゃいました。そして、その阿弥陀仏の徳に包まれることで、人が作為をもって、どうにかしようということが無意味だということがわかるのです。これがつまり親鸞聖人の教えです。みずからの力で仏になるのではない。阿弥陀仏の絶対の救いの法則にすべてをおまかせすることで、自然に導かれていくのです。』(自然法爾章―じねんほうにしよう)と救いの真髄を示されました。

仏教の歴史はながいあいだ、仏と成るには

自力聖道門といって自ら修めた清らかな行為によって迷いを離れようとした道でした。しかしこの道は誰もが行けるわけではなく、すべてを差別なく慈しみ救うというのが仏の本質ではないかと気づいたのです。ここに開かれたのが阿弥陀仏の救いのはたらきにまかせる信心の道、浄土門の教えです。

さて阿弥陀仏とはどう考えたらいいのでしょうか。仏陀が発見された気づきは、ものごとの真相に目覚めたということですが。たとえば、あらゆるものは網の目のように、一つだけで成り立っているというのではなく繋がりが合って存在しているのです。だから一つひとつには大切な役目があって、尊く平等な存在なのです。しかし自分ばかりを中心にして、ものごとを判断していくと道理と違った生き方となり、苦しむのです。残念ながら人間の生きかたは、自らそれに気づくことがとても困難なのです。すべての境を取り払った仏の本質は、同時に限りなくその間違いを知らせようと、迷いからの解放に手だてを尽くすはたらきを必然とします。その救う手だて(方便)をとって人格的姿を現したのが、阿弥陀仏です。形をあらわし、阿弥陀仏という御名を示し、南無阿弥陀仏という言葉となつて、私たちがたえず大いなる慈しみに抱きとってくださるのがすなわち阿弥陀仏なのだと思ってください。

本では、ニュートンが、リンゴの落ちたのを見て、万有引力という大発見をした話も出てきます。引力、重力、浮力といった物理学の法則がヒントになって「仏と救い」という大切な人生の課題を考えてみましょう。今回はこの続きをお話しましょう。

〔寺灯雑記〕

○門信徒会の役員一部が交代

1/21

新年の常例初法座のあと、午後3時半から本年度第1回目の門信徒会役員会が16名が出席して開かれました。

冒頭、任期満了に伴う役員会メンバーの一部交代が提示、了承されました。左記の新任の役員にはご任職より委嘱状が渡されました。よろしく願います。

(新任4名)

- ・植木輝夫さん
- ・多田羅健二さん
- ・本間芳子さん
- ・村田大喜夫さん

(退任3名)

- ・井山祐一さん
- ・越田修二郎さん
- ・水野良信さん

在任中のご努力に御礼申し上げます。

門徒総代の2名も加わっての議事は福島道宏副会長の司会によって進められ、ご任職並びに前住さんから、ご苦勞いただくことへの感謝と、率先して聴聞に心がけつつ門信徒皆さまの範として言動に気をつけていただきたい旨の挨拶がありました。

前年度の決算報告、本年度の予算案、役割分担等が審議され、現状を踏まえながら会の運営について種々意見が交換されました。

○壮年会総会と賑やかに新年会

1/28

平成30年度総会は18名が出席して開かれました。総会では運動方針として、新規入会者の獲得、お寺の行事への積極的参加、婦人会との連携、他寺院との交流など、昨年度に続きさらに推進していくことを決議し

ました。また、今年の例会では「日常語になった仏教用語」を学んでいくこととしました。

○ファミリーパーティー企画委員会

2/3

夏の行事として楽しみな門信徒ファミリーパーティーは今年7月29日(日)に予定されていますが、その企画について委員6名(男性4人女性2人)が集まり協議致しました。

第1部の開法会館では真打の落語家を予定、そのほかコーラスの案。第2部は従来通り各種模擬店を行うが夏場の食品の扱い方を慎重にすべき等、意見が出されました。

○教区壮年会記念日研修会に参加

2/4

第36回東京教区仏教壮年会連盟結成記念日研修会は築地本願寺を会場として開催され、当寺から6名が参加しました。

記念講演は前田壽雄師(武蔵野大学准教授)の「お念仏の教え 親鸞聖人と法然聖人」でしたが、とても分かりやすいご法話

で、歎異抄の「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひと(法然)の仰せをかぶりて信ずるほかに別の子細なきなり。」に集約されるように聴聞させていただきました。また第2項

の浄土三派の系譜では、親鸞・浄土真宗と弁長・浄土宗鎮西派(知恩院、増上寺等)と證空・西山浄土宗(禅林寺等)は法然聖人を祖師に阿弥陀如来をご本尊とする兄弟教団であるとも再認識しました。第3講で

は浄土宗と浄土真宗とは子細をあげると違いがあるにしても、目指すは同じお浄土への“南無阿弥陀仏”の大道は門戸が広く寛容あるみ教えと理解しました。

午後からは芝の増上寺(浄土宗)へ移動し、先ずは普段未公開の経蔵、徳川家6代の方々の墓所等、境内で説明を頂きながら見学し貴重な経験をしました。また若い僧侶のご法話

では、お念仏と木魚で迎えられ、法話の前後に抑揚つけた「十念念仏」を称えるという荘厳な雰囲気にもあいました。そしてお話のテーマは「機教相応」、つまり末法の時代の機根(人々の能力)には浄土の教えのみがふさわしいというご法話で、法然聖人の有名な

“大原問答”にも触れられました。
(報告者 入月正)

○当寺を会場に千葉組の連続研修

2/10

進行中の千葉組(北ブロック)連続研修会の三回目就当寺で行われました。受講生30名(当寺から4名)ほどは「仏教の中の浄土真宗」をテーマに参集。

はじめに講師の馬場弘道師から「仏教とは、仏の教え、そして私が仏になる教え」と教えられたあと、4班に分かれて「人生でどんなときに悲しみや苦しみを感じたか」を語り合いました。

そして最後に班別発表を踏まえて講師から、東日本大震災のボランティア活動を通して、或る被災者の苦悩から南無阿弥陀仏のお念仏が究極の拠りどころであったという、体験をもとにしたお話を聞きました。

【法座・行事案内】

○常例法座

・二月十八日(日) 一時

講師：柏倉学法師(真宗寺)

○和讃に学ぶ(正像末和讃)

・二月二十四日(土) 三時

講師：前任職

「無碍光仏のみことには…」から6首

○婦人会法座

・三月三日(土) 一時

講師：前任職

七高僧(天親菩薩)

○スリランカ世界遺産仏跡巡拝の旅

・三月四日(日)～十日(土)

○宿縁廟法要と彼岸会法要

・三月二十一日(祝) 一時

講師：高見沢孝之師(西敬寺)

【二月の掲示板のことば】

じぶんを大切にすることが同時にひとを大切にすること

『お願い!』

今年度の門信徒会費と修繕費積立金のご納入とお寺に墓地のある方は墓地管理料を郵便振替用紙にてよろしく願います。また併せて二十九年会費並びに修繕費積立金の決算報告書を同封いたします。

門徒総代 錦織春海
門信徒会会長 河合功